



大阪医学統計学セミナー 第6回

Osaka Biostatistics Seminar

1月30日 (火)
18:00~19:30



OSAKA UNIVERSITY

場所
CoMIT 4F 会議室B,C
最先端医療イノベーションセンター
<http://www.comit.med.osaka-u.ac.jp/>

過分散を伴う事象発生数を評価する比較臨床試験における分散関数の誤指定を考慮した被験者数設計法

講演者：井桁 正堯(兵庫医科大学)

概要：

喘息やてんかん発作等の再発事象の抑制を目的とした薬物療法の臨床試験では、個体内の事象発生数を主要評価項目として治療群間の比較が行われる。このような臨床試験での被験者数設計法として、ポアソン分布を用いた方法が知られているが、多くの疾患において、個体あたりの事象発生数の分散がポアソン分布の分散より大きくなる"過分散"が報告されている。そのため、被験者数設計では、過分散を精度よく見積もり、分散関数として指定する必要があるが、類薬等の先行研究から分散関数の事前情報を得ることは難しい。そこで、分散関数の指定を誤ることを前提として、ある範囲の真の分散関数に対して、一定以上の検出力を達成する被験者数設計法を提案する。

お問い合わせ：大阪大学大学院医学系研究科・医学部 医学統計学講座
E-Mail : office@biostat.med.osaka-u.ac.jp TEL : 06-6879-3301